

KSPN-JSPN Joint Meeting 2024 in Seoul に参加して (2024.5.9-5.10)

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター脳神経外科
下里 倫

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 脳神経外科 下里倫と申します。この度、奈良県立医科大学 朴 永銖先生のご高配により KSPN-JSPN Joint Meeting に参加することができ、大変有意義で感動的な体験をすることができましたのでこの場をかりて報告申し上げます。

私、下里倫は、沖縄県立北部病院で研修後、社会医療法人寿会富永病院(大阪市浪速区)、JCHO 東京新宿メディカルセンターにておもに、カテーテル治療を中心とした成人の脳血管障害について学び、現職場に 2021 年から着任し、そこから徐々に小児神経外科に携わらせていただいております。

英語が得意でないにもかかわらず留学への漠然とした憧れだけはあり、JCHO 新宿メディカルセンター時代にフランスへの短期留学が実現したものの、その後沖縄にもどって小児診療にも携わることになり、日常業務に忙殺されておりました。そんな中、またどこかで世界とつながりたいと考えていたところ、小児神経外科学会のホームページで、本学会が、韓国をはじめ、様々な海外機関との積極的な交流を推進しているのを目にしたのが始まりでした。小児神経外科学会のサイトには頻繁に国際学会のお知らせや案内が表示され、積極的に世界とつながることを重要視している姿勢が伝わってまいります。加えて、当院の長嶺知明先生を通して小児神経外科学会やこども病院神経外科医会で朴先生をはじめ、こども病院や大学病院の先生方とつながる機会を得ました。

恥ずかしながら、これまで海外での発表、英語の発表ともに経験なく、正直、私にとっては、留学以上に敷居が高いものでしたが、恐る恐る演題を提出した折には、朴先生に「全ての応募はアクセプトされます」との励ましの言葉をいただき勇気づけられました。また、すべての Joint Meeting 参加者(日本からは朴先生と Invited Lecture の speaker として招待された富山大学 赤井卓也先生の他、4 人の合計 6 人の参加となりました)が前日のウェルカムディナーに参加できるよう手配いただきました。

会場は江南地区の老舗にあたる Sam Jung Hotel にて開催されました。空港から直通のリムジンバスでスムーズに前日入りすることができました。

当日の発表では、韓国の先生方の、最新のトピックから臨床における Tips などに関する発表がすべて英語で行われていました。とくに、Special Lecture として発表されていた小児脳腫瘍のゲノム解析や DBS、Craniosynostosis に対する Endoscopic Suturectomy の 3 演題は基礎から臨床まで幅広く取り組まれている韓国の先生方の熱意が伝わってまいりました。

韓国の先生方同士の発表会でも英語での形式が通例のようで、聖隷浜松病院から参加されていた仲村友博先生のように早くから積極的に世界にアタックする若手の先生や流暢な英語でスピーチされている韓国の学生の存在を目にしたことにも大きな刺激をうけました。

私自身は、交通性水頭症の治療に難渋した症例報告をさせていただいたのですが、日本からの若手参加者のための Award を用意くださり、Best Presentation Award をいただくことができました。このような韓国の先生方の計らいは今後の学びのモチベーションを強く後押しするものであり大変感謝いたします。

前日のウェルカムディナーでは会長の Seoul 大学 Seung-Ki Kim 教授、同大学の Ji Hoon Phi 先生を中心に暖かく迎えていただき、参加者全員が、韓国のとてもきれいな茶器を記念品としていただきました。

また、当日の夜には、懇親会として Seoul 大学だけでなく Yonsei 大学 Severance 病院など他病院からも多くの先生方が参加され、交流を深めることができました。

小児神経外科の話題にとどまらず、韓国の医療事情や韓国と沖縄の古き時代の共通文化(沖縄は琉球時代に朝鮮とともに中国である明を親とするような関係を築いており、また琉球、朝鮮同士も交流が盛んにおこなわれていたため、当時の王宮の外観や服装が雰囲気的にも似ています)などを語りながら、韓国の料理やお酒をおいしくいただき、琉球が、東南アジアとの交易を中心に栄えていた時代の古人の気持ちに思いをはせることができました。日本の漫画文化も浸透しているようで「医龍」などを愛読されている先生もいらっしゃり、カジュアルな話題でも盛り上がりました(笑)。二次会は日本形式の食処“IZAKAYA”に連れて行ってもらい、なんと各先生方の出身地のお酒をふるまってもらいました。

今回の学会への参加で、外国語を介した学術の交流が得られただけでなく、韓国の先生方のおもてなしにも大変感銘をうけ、とても実り多き旅程となりました。

最後に、発表のチャンス、楽しい交流会などこの会を通して得られた様々な経験は朴先生のお力添えなくしては実現いたしませんでした。あらためて感謝申し上げます。

必ずや今後の学びに活かしていきたいと思います。



Fig. 1 前日のウェルカムディナーでいただいた茶器



Fig. 2 学会オープニング. Seung-Ki Kim 教授の開会挨拶